

【お知らせ】 入院時重症患者対応メディエーター養成講習 令和8年度からの運営体制につきまして

2026年2月

日頃より入院時重症患者対応メディエーターの活動にご協力いただき感謝いたします。

入院時重症患者対応メディエーター養成講習は、平成29年度からの厚生労働科学研究 移植医療基盤整備研究事業の脳死下臓器提供に関する研究班の分担研究において検討がなされ、令和3年度より同研究班のもとで開催してまいりましたが、このたび令和7年度「脳死下、心停止後の臓器・組織提供における効率的な連携体制の構築に資する研究（研究代表者 横田裕行教授）」の研究事業期間終了に伴い、講習の運営体制を変更することとなりました。

今後は日本臨床救急医学会 教育研修委員会 入院時重症患者対応メディエーター養成小委員会において、養成講習の実務を担う一般社団法人臨床教育開発推進機構（ODPEC）と協力しつつ運営を行う体制といたします。

養成講習の中心的存在となるファシリテーターの育成、および講習を修了した実務者の現場活動の支援においては、引き続き同小委員会傘下のワーキンググループのもとで活動を推進いたします。またこれまで厚生労働科学研究の研究分担者のもとで行ってまいりました講習の修了者情報の管理、および毎年開催していた実務者発表会の企画運営については、上記の新たな講習運営体制のなかに事務局機能をおき、業務を継続していく予定です。

こうした業務の継続にあたっては、厚生労働科学研究の補助金に代わる資金源が必要となります。合わせて、今後は養成講習におけるコンテンツの改善、修了者の継続的な研鑽のための資格更新制度等の構築、非医療職の方に入院時重症患者対応メディエーター業務に加わっていただくための医療知識等の教育の整備などの事業を進めていくことも重要となります。こうした状況を鑑み、養成講習の受講費用については令和8年度からの増額が必要と判断いたしました。現在、日本臨床救急医学会の承諾を得て、具体的な金額等の詳細を検討しているところです。

これまで長きにわたり、上記厚生労働科学研究での研究班活動にご参画、また養成講習と実務者発表会の開催に多大なご協力をいただいた皆様に深く感謝いたします。

令和8年度以降、これまで得られた多くの知見をもとに入院時重症患者対応メディエーターのあり方を一層進化させ、救急現場でなくてはならない役割となるような養成と支援に邁進してまいります。また、養成講習の修了者数が1,800名を超えた入院時重症患者対応メディエーター自身による情報共有や研究、研鑽を目的とした団体の設立についても、実現に向けて検討を進めてまいりたいと考えております。

どうぞ今後とも引き続きご協力の程、よろしく願いいたします。

三宅康史

日本臨床救急医学会 教育研修委員会 入院時重症患者対応メディエーター養成小委員会  
一般社団法人臨床教育開発推進機構（ODPEC）  
入院時重症患者対応メディエーター協会（仮称） 設立準備室